

【ジンバブエに対する医療環境改善のための無償資金協力に関する交換公文の署名式】

1月29日（水）、ハラレ市内の財務・経済開発省において、令和元年度「経済社会開発計画・ハラレ中央病院小児科にかかる医療機材等の供与（供与額 3 億円）」の実施に関する署名式が開催され、岩藤大使とヌーベ財務・経済開発大臣との間で書簡の署名・交換が行われました。

ジンバブエの経済状況は一貫して低迷しており、医療分野の設備投資に対する政府予算手当も不十分である中、同国最大の高次医療施設に位置付けられているハラレ中央病院の小児科ではベッド数 350 床に対して、年間約 1 万人の子どもたちが入院し、加えて約 4 万 5 千人の子どもたちが外来診療に訪れるなど、需要に対する医療施設の整備が追いついていないほか、多くの医療機材が老朽化しており、子どもたちの医療環境に深刻な支障が生じています。

この協力は、ハラレ中央病院の小児科に対して医療機材（入院患者用ベッド、人工呼吸器、レントゲン装置等）を供与することにより、ジンバブエの子どもたちのための保健医療サービスの質及び医療アクセスの改善を図り、ひいては持続的な成長に向けた経済社会開発に寄与するものです。

挨拶において、岩藤大使は、今回供与した最先端の医療機材が、JICA により実施されている 5S-KAIZEN に関する技術協力（日本の産業界で開発された職場環境改善及び品質管理の手法により保健医療サービスの質改善を実現することを目指す）の取組を通じ適切に管理され、建設当初から支援を続けている当病院のサービスの質が維持されることを希望する旨を、ヌーベ大臣は、今回の支援はジンバブエ政府の優先事項である経済安定化や健康的な生活の確保等の推進に大きく貢献するものであり、農業、輸送、教育のインフラ等への支援と併せて、様々な日本政府からの支援に感謝する旨を述べました。



岩藤大使の挨拶



ヌーベ大臣の挨拶



書簡の署名



岩藤大使とヌーベ大臣による書簡の交換

